



さいたま市文化財時報

かや
榎りぼーと
第52号

平成25年度 埋蔵文化財の調査について

『埋蔵文化財』とは、土地に「埋蔵」された「文化財」のことで、住居跡・貝塚・古墳などの「遺構」と、土器・石器などの「遺物」のことを言います。埋蔵文化財は、私たちの祖先の生活を知る為の重要な「てがかり」であり、また郷土の歴史や文化を形作る「基(もと)」となるもので、後世に正しく伝えていかななくてはならない重要な歴史文化遺産であると言えます。

埋蔵文化財が所在する範囲を「埋蔵文化財包蔵地」と言いますが、一般的には「遺跡」と呼ばれており、現在さいたま市内では1,126か所が確認されています。埋蔵文化財は一度壊れてしまうと二度と元に戻せないものであり、本来はそのままの状態を保存してゆくことが望ましいのですが、土木工事などで壊れてしまう場合には、事前に記録として保存する「発掘調査」を実施しています。今年度、さいたま市内では、平成26年2月末までに8件の発掘調査が実施されました。今回は、これらの発掘調査の中から主な調査例をご紹介します。

さて、さいたま市では、発掘調査だけではなく皆さんに埋蔵文化財を理解していただく取り組みも行っています。今年度は、まず7月に「第2回南鴻沼遺跡速報展」を与野文化財資料室で開催、さらに、発掘調査の成果をいち早くお知らせする「最新出土品展」を9月10日からさいたま市立博物館、プラザノース、プラザウエスト、プラザイースト、岩槻郷土資料館と巡回展示し、中央図書館を最後に12月15日まで開催しました。また、9月14日には、「さいたま市内遺跡発掘調査成果発表会」と國學院大學名誉教授の小林達雄先生による「真福寺貝塚講演会」を大宮図書館視聴覚ホールで開催し、市民の皆さんに熱心に聴講していただきました。

このほか、今回ご紹介する岩槻区の真福寺貝塚の調査に合わせ、近隣の小学校・高等学校の児童・生徒の皆さんや地域の皆さんを対象とした現地見学会を実施させていただきました。

とろじんやあと 土呂陣屋跡の調査

〈北区〉

北区土呂町1534番地周辺に位置し、一部大宮区寿能町まで及んでいます。東武野田線大宮公園駅の北東約0.5kmのところにあります。地形としては、芝川により開析された大宮台地大宮支台の東縁に位置し、遺跡の南と北には芝川からの浸食谷が大きく入り込み、小舌状台地しょうぜつじょうとなっています。本遺跡より東側の芝川対岸には大宮台地片柳支台が広がり、芝川の低地(芝川低地)との比高差は8mほどあります。

今回の調査は、区画整理事業に伴う道路建設に先立ち、さいたま市遺跡調査会が平成25年8月から10月にかけて実施しました。

調査の結果、縄文時代中期の住居跡4基、土坑3基をはじめ、縄文時代後期・平安時代の住居跡や溝などの遺構と、縄文時代の土器・石器、平安時代の土器・石製品・土製品などの遺物が出土しました。

今回の調査では平安時代に比定される溝が遺跡内で初めて検出され、平安時代の住居跡のカマド内などから甕形土器などがまとまって出土しました。



▲平安時代の住居跡(土呂陣屋跡)

いわつきじょうあと 岩槻城跡の調査

〈岩槻区〉

岩槻区太田2丁目に所在する遺跡で、東武野田線岩槻駅から東に1.5km程のところに位置しています。

大宮台地岩槻支台の東縁に位置し、東に元荒川(旧荒川)を望みます。岩槻支台は北西の蓮田市から南東に細長く伸びた台地で、南西の大宮台地大宮支台とは綾瀬川によって隔たれています。

今回の調査は、分譲住宅の建築に伴い、さいたま市遺跡調査会が5月から7月にかけて調査を実施しました。

調査の結果、縄文時代晩期終末期の住居跡2軒と、縄文時代の土坑30基、中世以降の堀1条などの遺構と、縄文・弥生時代の土器、中世の板碑、近世の陶器・磁器などの多彩な遺物が出土しました。

今回の調査では岩槻城の本丸と樹木屋敷との間の堀を調査しましたが、この堀は、幅20m以上、深さも3m以上という規模の大きいものであったことを確認しました。



▲縄文時代終末期の住居跡(岩槻城跡)

しものだほんむらいせき 下野田本村遺跡の調査

〈緑区〉

緑区大字下野田に所在する遺跡で、埼玉高速鉄道浦和美園駅の西側出口の正面に位置しています。現在この地域は、急速な都市化が進み、自然景観・環境共に大きく変わりつつあります。

今回の調査は、区画整理事業に伴う都市計画道路建設に先立ち、さいたま市遺跡調査会が平成25年8月から12月にかけて調査を実施しました。

調査の結果、縄文時代の土坑52基、弥生時代中期の土坑1基、弥生時代中期から古墳時代前期の環濠1条などの遺構と、縄文時代、弥生時代、古墳時代の土器、近世の銭貨などの遺物が出土しました。



▲弥生～古墳時代の環濠(下野田本村遺跡)

しんぶくじ かいづか

真福寺貝塚の確認調査

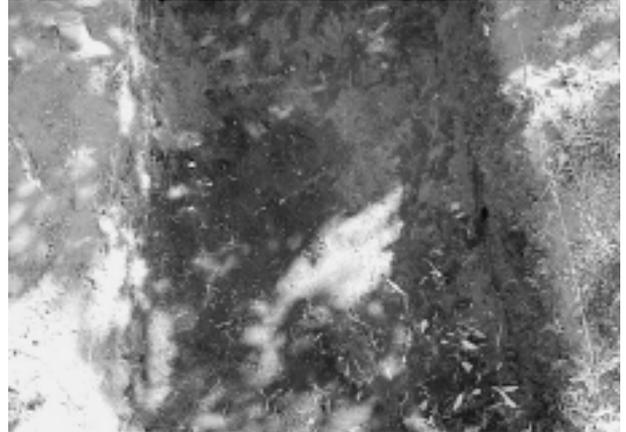
〈岩槻区〉

真福寺貝塚は、東武野田線岩槻駅の南東約1.6kmのところにあります。真福寺貝塚では、大正時代から台地上に広がる弧状の貝塚遺跡と隣接する低湿地遺跡において、発掘調査が幾たびも行われてきました。そうした調査の成果により、縄文時代後期の遺物・遺構が明らかにされるなど、我が国の歴史・文化の歩みはもとより、日本考古学の歩みを知る上でも、なくてはならない遺跡として、現在、国の史跡に指定されています。

真福寺貝塚では、平成23年度から史跡として保存・保護すべき範囲を明らかにするための確認調査を史跡外縁部で実施してきました。今年度までの3年間で、地下レーダー探査、詳細な地形測量、そして計8地点の確認調査を行いました。

今年度は第5～8地点の4地点の調査を実施しました。第5地点は、史跡南側隣接地の調査でした。当該地は史跡指定地より1mから2mほど高くなる斜面で、東西に細長い区画に南北方向のトレンチを設定し調査を実施しました。調査したトレンチ全体で遺物が出土しましたが、特に東側のトレンチでは縄文時代後期から晩期の比較的摩耗の少ない大きめの土器片が多く出ました。また、中央付近のトレンチでは貝層が検出されました。

第6～8地点は、史跡の南側に位置し、第5地点の東側隣接地になります。第6地点は、盛土状の遺構の所在が想定される地点での調査でした。調査の結果、明確な包含層は検出されませんでした。大型の土坑を1基検出し、覆土中より、縄文時代後期のほぼ完全な形の台付浅鉢形土器が出ました。第6地点では他にも土坑・ピット状の遺構を確認することができました。なお、第7・8地点では、包含層から土器の小破片が出ました。これまでの調査結果により、真福寺貝塚として保存すべき範囲が明らかになりつつあります。



▲貝層検出状態(真福寺貝塚確認調査第5地点)



▲土器出土状態(真福寺貝塚確認調査第7地点)



▲現地説明会の様子(真福寺貝塚)

福島からこんにちは

～東日本大震災復旧・復興支援派遣職員レポート
(平成25年度・第4回)～

震災復興事業は、海岸防災林の整備やほ場整備など県が行う事業のほか、各市町が行う防災集団移転や災害公営住宅の建設などの事業も各所で進められています。これらの事業に先立つ埋蔵文化財の調査も増え、各市町の職員だけでは人手が足りないため、市町間での職員の長期派遣や、県職員による支援が行われています。県への派遣職員も、各市町の調査の実態に合わせて数人が応援に出向いており、市町の職員と連携して調査を進めています。調査期間の短縮のため、雪の中での調査となる場面も増えています。

防災集団移転のための住宅団地や災害公営住宅は、今年度末から来年にかけて完成するところが多く、避難先や仮設住宅からの引越が進みそうです。

(文化財保護課 埋蔵文化財係

主任 橋本 玲未)



▲南相馬市鹿島区内の災害公営住宅建設予定地での発掘調査

お知らせ

□さいたま市指定有形民俗文化財「福寿庵百観音」の公開

日時 平成26年4月4日(金)～4月8日(火)

10時～16時頃まで

場所 福寿庵(西区大字宝来1313)

※12年毎の午年の開帳で、通常は公開されていません。

□さいたま市指定無形民俗文化財「南部領辻の獅子舞」の公開

日時 平成26年5月11日(日)〔予定〕(雨天中止)10時～

場所 鷲神社(緑区南部領辻2941)

内容 春の祭礼は鷲神社で奉納した後、鷲神社を13時頃出発し、南部領辻地区内を回ります。

※天候等により日程が変更となることもありますので、詳しくはさいたま市の Web ページを御覧いただくか、文化財保護課(☎829-1723)までお問合せください。



▲福寿庵百観音